

## 1 はじめに (§5.1)

(1) 意義 (sense) [内包 (intension)] と指示 (reference) [外延 (extension, denotation)]

- a. 意義：使用コンテキストによらず一定
- b. 指示：使用コンテキスト次第で変化

(2) 佐藤さんが親しい友人と食事をするとっていたが、それは田中さんのことだ。

(3) 語彙的曖昧性 (lexical ambiguity)：1つの表現が複数の意義を持つ

- a. 彼の発言はどこかおかしい。
- b. 弟が金に困っていたので、追加の仕事をやることにした\*<sup>1</sup>。
- c. おじさんは有名人だ。

- 異なる意義を持つ複数の表現が状況によって同じ指示対象を持つこともある。

- (4)
- a. 津田梅子
  - b. 津田塾大学創立者
  - c. 欧米の学術雑誌に論文が掲載された最初の日本人女性
  - d. 五千円札に描かれる予定の人

- 1つの表現が複数の指示対象を持つ場合、その表現は複数の意義を持つ？ cf. (3)  
—Yes のこともあれば、No のこともある。

- Yes の場合

1. 多義 (polysemy)
2. 同音異義 (homonymy)

- No の場合

- 漠然性 (vagueness)
- 不完全指定 (underspecification)

- これらを区別するための判断テストがある。

- さらに、強制 (coercion) や比喩により語に新たな意義が生まれることもある。

## 2 外界世界の解釈としての語の意義 (§5.2)

- 外界世界の状況を記述したり、物体を指示する時に使う語は普通、その状況や物体のすべての側面を捉えてはいない。
- 我々は外界世界の解釈の仕方 (construction) に応じて、語の選択を行う。

---

\*<sup>1</sup> この文には指示的曖昧性もある。

(5) [状況：話し手は机の上の蚊に向かって手を素早く下ろした]

- a. 私は机の上の蚊を叩いた。
- b. 私は机の上の蚊を殺した。

Q. (5a) と(5b) で捉えられていない側面は何か、(6) を参考に考えよう。

- (6)
- a. 私は机の上の蚊を叩いた。でも、死ななかつたから、殺虫スプレーを噴きかけた。
  - b. #私は机の上の蚊を殺した。でも、死ななかつたから、殺虫スプレーを噴きかけた。

- 我々は語について、その語に言語的に符号化された情報（意義）だけでなく、その語にまつわる百科事典的知識を持っている。
- 両者の区別は常に容易ではないが、語の意味の分析では前者を対象とする。

Q. 「家」という語の意義と百科事典的知識を考えよう。

### 3 語彙的曖昧性 (§5.3)

#### 3.1 曖昧性、漠然性、不確定性 (§5.3.1)

- 1つの表現に様々な指示対象が存在する背景は曖昧性（＝意義が複数存在）だけではない。
- 意義は1つでも、様々な指示対象を持つことがある。
  1. 漠然性 (vagueness)：指示対象を厳密な線引きにより定義できない。
  2. 不確定性 (indeterminacy)：指示対象のある側面に対して決まっていない。

(7) 語彙的曖昧性 cf. (3)

The farmer allows walkers to cross the field for free, but the bull *charges*.

- a. 支払いを請求する
- b. 突撃する

(8) 漠然性

- a. 今日は暑い。(気温＝?度、湿度＝?%)
- b. おじいちゃんはハゲだ。(髪密度：?本/cm<sup>2</sup>)

(9) 不確定性

- a. 「いところ」(男女に関して決まっていない)
- b. 「蹴る」(足の右左に関して決まっていない)

### 漠然性の3つの特徴 (Kennedy 2011)

#### 1. 真理条件が文脈に依存

- 冬の日の「暑い」≠ 夏の日の「暑い」
- 「大きい」アリの大きさ ≠ 「大きい」ゾウの大きさ

cf. ある人が「いところ」かどうかは文脈に依存しない。

#### 2. 境界線上の事例が存在

- 「高い」：600円のコーヒーは？ 500円のコーヒーは？ 450円のコーヒーは？
- 「都会」：新宿は？ 吉祥寺は？ 国分寺は？ 西国分寺は？

cf. 「いところ」である人とそうでない人の境界線上の事例は普通ない。

#### 3. 「少しずつ」のパラドックス

例：ホットティーに氷を1つずつ入れていくとアイスティーになる。氷を2つずつ入れれば、より早くアイスティーができる。つまり、氷の数に比例して、アイスティーになる時間が短縮される。しかし、何個目の氷でアイスティーになったかを厳密に特定することはできない。

- 漠然性は他言語の対応する表現でも残る。
- 不確定性は他言語の対応する表現では存在しないことがある。

#### (10) 漠然性

- 暑い, hot
- 大きい, big
- ハゲ (だ), bald

#### (11) 不確定性

a.

英語	マレー語	日本語
brother	abang	兄
	adik	弟
sister		妹
	kakak	姉

b.

英語	北京語	日本語	意味
uncle	伯伯 (bóbo)		父の兄
	叔叔 (shūshu)		父の弟
	姑丈 (gūzhàng)		父の姉妹の夫
	舅舅 (jiùjiu)		母の兄・弟
	姨丈 (yízhàng)		母の姉妹の夫

### 3.2 曖昧性と漠然性・不確定性の区別 (§5.3.2)

- 異なる意義は**敵対的** (antagonistic) であり、1つの語に対して2つの意義を同時に持たせることはできない。
- ダジャレは曖昧な語の意義の敵対性を効果的に利用したもの。

Q. 以下のダジャレ文について、(i) どの語句が語彙的に曖昧か、(ii) その語の2つの意義は何か、考えよう。

- (12) a. The hunter went home with five bucks in his pocket.  
 b. The batteries were given out free of charge.  
 c. I didn't like my beard at first. Then it grew on me.  
 d. When she saw her first strands of grey hair, she thought she'd dye.  
 e. When the chair in Philosophy Department became vacant, the Appointment Committee sat on it for six months.

- くびき語法** (zeugma) は、等位接続された2つの表現を1つの語に結びつけるものだが、その語が語彙的曖昧性を持つ時ユーモアを生む。

(13) Mary and her visa **expired** on the same day.  
 = Mary **expired** (息を引き取る) and her visa **expired** (失効する) on the same day.

Q. 以下のくびき語法を含む文について、(i) どの語句が語彙的に曖昧か、(ii) その語の2つの意義は何か、考えよう。

- (14) a. He carried a strobe light and the responsibility for the lives of his men.  
 b. On his fishing trip, he caught three trout and a cold.

#### 曖昧性の同一性テスト

- 曖昧な語が省略される時、その語はその先行詞と同じ意義で解釈されなければならない。

(15) 健は自分の**夢**について語った。直美もだ。  
 = 健は自分の**夢**について語った。直美も自分の**夢**について語った。

- (i) 健：睡眠中の現象 直美：睡眠中の現象  
 (ii) 健：将来の希望 直美：将来の希望  
 (iii) \*健：睡眠中の現象 直美：将来の希望  
 (iv) \*健：将来の希望 直美：睡眠中の現象

- (16) 不確定性の場合  
 健は私のいところだ。直美もだ。  
 = 健は私のいところだ。直美も私のいところだ。  
 (健：男のいところ 直美：女のいところ)

### 語義関係テスト

- 曖昧な語の異なる意義はその同義語、対義語に関しても異なる。

- (17) 「あつい」
- 意義 1：熱い 対義語：冷たい
  - 意義 2：暑い 対義語：寒い

### 矛盾テスト

- 「X だが X ではない」という形式の文が矛盾しなければ、表現 X は曖昧である。

- (18) [母親が成人した娘について]  
 あの子は確かに私の子供だが、もう子供じゃない。  
 (だから、何かをするのにいちいち私の許可なんていらぬ。)  
 cf. マレー語 anak vs. kanak-kanak
- (19) 不確定性の場合  
 #健は確かに私のいところだが、いとこじゃない。  
 意図した読み：健は私の男のいところだが、女のいところではない。

### 3.3 多義性と同音異義 (§5.3.3)

- 多義性 (polysemy)：1 つの語に対して複数の語義。語義間に何らかの関係がある。
  - 同音異義 (homonymy)：異なる語が偶然同じ音形。語義の間に関係性はない。  
 ★同音意義語 (homonym) は文字が違っていてもよい。文字が違う同音異義語を特に同音異字語 (homophone) と呼ぶ\*2。
  - 多義性と同音異義を明確に区別するのは難しい。
  - しかし、両者を区別するための一般的指針はいくつか存在する。
1. 多義性における 2 つの語義は少なくとも 1 つ顕著な意味素性・意味特性を共有する。  
 例：「ことば」1. 単語 2. 発話、セリフ 3. 言語 vs. 「にる」1. 煮る 2. 似る
  2. 多義性における意義は別の意義の比喩的拡張により生じたと考えられる。

\*2 文字が異なる異義語は、同綴異義語 (homograph) と呼ぶ。同綴異義語は発音が同じでなくてもよい (例：「開く」、「何で」)。

- 例：「あし」 1. 身体部位としての足 2. 椅子の脚 3. 移動手段
3. 多義性においては、主要な意義と二次的・比喩的な意義が存在する。
- 伝統的に辞書では、多義語の複数の意義は1つの項目の中に記載されるのに対し、同音異義語は複数の項目に分けられる。

(20) ことば【言葉】（『明鏡国語辞典』第二版）

1. 人間の言語。社会的に決められた音の組み合わせで、意志・思想・感情などを表現するもの。広くは、文字によるものもいう。
2. 単語。また、語句。
3. 能楽・邦楽などで、旋律を持った節の部分に対して、通常のせりふの部分。
4. 小説・戯曲などで、地の文に対して、会話の部分。

(21) あつい（『明鏡国語辞典』第二版）

- a. あつい【厚い】 (英 thick, 馬 tebal)
- b. あつい【暑い】 (英 hot, 馬 panas)
- c. あつい【熱い】 (英 hot, 馬 panas)

(22) あつい（『広辞苑』第六版）

- a. あつい【厚い】 (英 thick, 馬 tebal)
- b. あつい【暑い・熱い】 (英 hot, 馬 panas)

### 3.4 一度に一義 (§5.3.4)

- 語彙的曖昧性は普通、文脈により解消される。
- そのため、聞き手は曖昧な語をその1つの意義でしか解釈しないし、話し手もそのような解釈のされ方を見越して発話する。

Q. 以下の文の太字部分はすべて曖昧だが、どのようにか？文全体にはいくつの解釈があるか？

(23) お宅の子供はあつい場所や高い場所やくらい場所が苦手だっ**て**ききました。

### 3.5 文脈における曖昧性解消 (§5.3.5)

- 不確定性を含む語は、言語的・非言語的文脈により不確定だった側面が確定することがある。

- (24)
- a. 私の血圧を測った**看護師**はいい方だった。(性別=?)
  - b. 私の血圧を測った**看護師**は妊娠していた。(性別=女性)
  - c. [妊娠した女性を指して] あれが私の血圧を測った**看護師**だ。(性別=女性)

## 4 文脈に依存した意味拡張 (§5.4)

- 語の意義には確立したものとそうでないものがある。
- 確立した意義は話者の心的辞書の中に永久的に保存されている。
- 一方、確立していない意義は話者の心的辞書の中には存在せず、文脈に応じて新たに作り出される。
- 文脈に従って確立していない意義を作り出す操作を**強制 (coercion)** という。
- 強制は、確立したあるいはデフォルトの意義と文脈的要因から、必要に応じて計算される。
- 強制による拡張で生じた意味は、修辭 (trope) とか「言葉のあや (figures of speech)」と呼ばれ、いくつかのパターンが認められている。

### 4.1 比喩的意義 (§5.4.1)

- (25)
- a. **隠喩／メタファー (metaphor)**：2つの異なったものの間に暗にあるたとえを利用する修辭法。(例：「時は金なり」「気分が上がる」)
  - b. **誇張 (hyperbole)**：強調等のために誇張を行う修辭法。(例：「耳の穴かっぱじってよく聞け」「猫の額ほどしかない庭」)
  - c. **婉曲語法 (euphemism)**：不快な直接的表現の代わりに不快感を与えない別の表現を用いる修辭法。(例：「死ぬ」の代わりとして「亡くなる」)
  - d. **換喩／メトニミー**：ある語句と密接に関連した別の語句を用いる修辭法。(例：政界を指して「永田町」)
  - e. **提喩／シネクドキ**：全体で一部を、特殊で一般を、一般で特殊を、材料・原料でそこからできている物を表す修辭法。換喩の一部とみなされることもある。(例：「手が足りない」「花見」)
  - f. **曲言法 (litotes)**：肯定を否定の否定で表すなど、控え目に表現する修辭法。(例：「ある」の意で「なくはない」、「よい」の意で「悪くない」)
  - g. **反語 (irony)**：文字通りの意味が意図した意味と逆であるような表現を用いる修辭法。(例：寝坊した人に「早起きですね」)

### 4.2 比喩的意義はどのように確立するか (§5.4.2)

- 比喩的意義の中には何度も使われ、よく知られるようになり、元々の新鮮さや新規性を失うものもある。
- そのような段階に達した比喩的意義は、ごく普通の語彙項目として話者の心的辞書に保存されていると思われる。  
例：「嘔み砕いて (説明する)」「険しい (顔)」
- 比喩的に生じた新たな語義が心的辞書に加わると、語彙的曖昧性が生じる。
- 確立した意義となった隠喩は特に**慣習的隠喩 (conventional metaphor)** と呼ばれる。

## 5 意味の「側面」 (§5.5)

- 1つの意義にいくつかの側面があり、ある意義全体ではなく、その意義の異なる側面に言及されることがある。

(26) 「本」

- a. この本は大きいです。(物体)
- b. この本は面白いです。(内容)

(27) 「大学」

- a. 津田塾大学は小平市にあります。(建物)
- b. 東京外国語大学は1897年に創立されました。(組織)
- c. 大学の方針では、暴風警報が発令されている日は休講だ。(組織の意思決定者)

- くびき語法のテストをすると、異なる側面は独立した複数の意義ではないことがわかる。

(28) この本は大きく、面白いです。— ユーモアなどない、ごく普通の文 cf. (13)  
(=この本は大きく、この本は面白いです。)

- 意味の側面は換喩に基づく意味拡張の結果でもない。
- 異なる比喩的意義はくびき語法を含む文では容認されない。

(29) a. #村上春樹は向こうの本棚にあり、早稲田大学を卒業した。  
b. #今、手が痛くて、足りない状況だ。

### 参考文献

Kennedy, Christopher. 2011. Ambiguity and vagueness: An overview. In *Semantics: An International Handbook of Natural Language Meaning*, ed. Claudia Maienborn, Klaus von Stechow, and Paul Portner, volume 1, 507–535. Berlin: Mouton de Gruyter.